

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572306215		
法人名	有限会社ヘルスケア悠愛		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	秋田県男鹿市払戸字渡部114番地3		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは創業者が自らの福祉理念を地域に還元することを目的として開設された。静かな住宅地にあり、民家を改修した建物は一見高齢者ホームとはわからないくらいで近所になじんでいる。「だれでも、いつでも、気軽に、みんなと共に、助け合い、心豊かに、安心して生活できる」ホームを目指して、職員がみな努力している。ここ2年は感染対策で地域住民の交流もままならないが、以前はカラオケ大会の開催や、地域のナマハゲや祭典の参加、スポーツ大会の応援などを行っていた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に立地していることから地域の方々と関わりやすい環境にあります。現在は感染防止のために実施していませんが、一緒にカラオケ大会を開催したり、気軽に立ち寄っていただいたりということが日常の風景としてありました。コロナ終息後には昔からの関わりを通して地域交流が再開され、利用者の活動の充実を図ることができるものと思われまます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関そばに掲示してあるが、職員への浸透はじゅうぶんではない。もっとコンパクトにし記憶できるように。また時代にあわせた言葉で改めることも検討している	9項目の理念が掲げられており、管理者はもっと簡潔なものにして職員への浸透を図りたいと考えていますが、実現には至ってはいません。	職員が理解しやすく、取り組みやすい理念の作成を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3年前まで、地域のかたを招いてカラオケ大会を開催したり、祭典などの地域の行事に参加していた。ここ1年は感染症対策のため行事が中止になり、交流の機会が減っている	コロナ禍で自粛が続いていましたが、町のお祭りの飾りつけを利用者と一緒に行う等、徐々に再開を決めたことも増えています。野菜をいただいたり、訪問理容、近所の商店の利用は変わることなく続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民から認知症に関する相談等を受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策のため内部からの参加者に限っている。管理者の健康上の理由で、定期的な開催ができていないが改善中。行われた会議の意見をサービスに取り入れている	検討中ではあるものの定期開催ができない状況が続いており、今年度は開催が3回であることと資料の送付にとどまっており、意見もいただいておりません。	年6回の開催と参加メンバーから意見をいただいてサービスの向上に活かすための工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括センター職員と、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター主催の研修に参加できないということもありましたが、窓口に出向いて関係部署と相談や情報交換等で連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は行わない。サイドレール等福祉用具は適切に使用している。身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期開催している	ケアの過程で発生することには都度説明して職員の理解に繋げ、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が制度の理解と活用につとめている。職員全体の学習はじゅうぶんではない		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得していただくようにしている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見については、事業所として検討を行い、すみやかに対応している	家族からの要望がさほどなく、遠慮があつて言いにくいのではと管理者は考えているようです。前回の外部評価を踏まえ、意見や要望を言い出しやすい環境を整える対策を検討していますが、実現できていません。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	日々、代表者や管理者が職員からの意見や情報を受け止めて、運営に反映させている	職員が意見を言いやすい環境がつけられており、日常的に出される意見、要望を検討して運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と周辺市町村エリアのグループホーム連絡会に入会しており、合同の交流会や勉強会に参加していたが、ここ数年は感染症対策のため行事が中止になり、交流の機会が減っている。電話連絡はしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応は、計画作成担当者を中心に、本人との信頼関係・安心を確保するようにつとめている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応は、計画作成担当者ならびに介護職員が、家族等との信頼関係・安心を確保するようにつとめている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒に楽しんだり、共に暮らす関係の構築に、じゅうぶん留意している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を深めるよう、家族へ来所をおすすめしたり、一時帰宅を行ったり、家族の写真を預かるなど十分に留意している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	自宅への一時帰宅の送迎、本人の希望する商店での買い物等への付き添い、本人希望の医療機関へ通院する等、十分に留意して支援している。	可能な限り本人の希望に沿った支援が継続できるように取り組んでいます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	閉ざされた個室にこもることなく、みんなが交流できるホームにすることで支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、近隣の住民におかれては、相談や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が一人ひとりの思いや希望等を日常生活の中でくみ取り、支援に生かしている。	日常生活の中で利用者の要望や希望を汲み取り、申し送り等で情報の共有を図って支援に繋がっています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の調査、本人との日常会話、家族等との面談などの機会ですべて把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者本位の支援が行われている。チームでのアセスメント会議を反映して介護計画を作成している	必要に応じて随時カンファレンスを実施し、毎月の会議で職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。家族への確認も行っています。	職員への介護計画の周知と介護計画に基づいた日常の記録ができる工夫を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と職員間の情報の共有と実践はじゅうぶんにできている。介護計画の見直しへの活用については課題が残る		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマル・インフォーマルな資源を把握して、十分に留意している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等が希望する場合、かかりつけ医。かかりつけ薬局の利用を支援している。	入居前からの医療機関で継続受診しており、希望に沿った支援が行われています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職はいないが、訪問の看護師等と機会があるときは適切に協働する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際の情報の提供や、退院前のカンファレンスに参加し、退院後の支援に備えるなど、十分に留意している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを説明して支援している。終末期は家族等、医療従事者や福祉サービス等と協働するように留意している。終末期に転院した利用者へのフォローも積極的に行っている	ホームでの看取りには対応しておらず、ホームでの生活が困難になった場合には医師の協力のもと次の支援に繋げ、本人、家族が安心できるように取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は救命講習の受講済みであるが、今後も全職員に浸透させるよう機会を増やしていきたい。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難計画書の作成、掲示および避難訓練を実施し、地域住民・地域の消防団との交流も行っている。	地域の協力体制はありますが、コロナ禍でもあり、訓練は職員のみで実施しています。指定避難場所の設備の確認を未だ行っていないので、確認後に必要な備品の準備も考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員が、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。建物が前時代的でプライバシーには優れていないので、職員が常に配慮している。	利用者と接する時は目線で話すことを心がけています。民家を改修した造りであることから、間仕切り等には工夫を施し、プライバシーに配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ふだんの整容は職員が対応し、その人らしい身だしなみ・おしゃれに十分に留意している。美容室等へ通う支援や、理容師の訪問による整容も行っている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を調べたり、地域でとれる山菜を食卓に出すなど、楽しめる食事の支援をしている。あいにく自立力が低下し、利用者と一緒にの準備や片付けは難しくなった	機能の低下によって手伝っていただくことは少なくなりましたが、山菜の下処理には利用者の力を活かしていただき、また、差し入れの野菜を献立にあげて季節のものを楽しめるように配慮しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべての職員が、常に状況を把握しており、支援している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	すべての職員が、本人の力に応じた口腔管理に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動の記録を検討して、すべての職員が自立にむけた排泄の支援を行っている。	トイレで排泄できるよう支援しています。機能の低下により、改善できることは難しくなっていますが、チェック表を活用して失敗の軽減に向けて取り組んでいます。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の記録・行動の記録を検討して、すべての職員が便秘の予防と対応の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	小規模な事業所であり、利用者主体の希望のタイミングで入浴を提供することは困難である。現在は曜日を決めて週2回の入浴を、利用者の心身の状態や気分に応じて実施している。	週2回入浴しており、それ以外の日は清拭や足浴を行っています。拒否もなく、スムーズに入浴支援が行われています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	すべての職員が、十分に留意している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と相談して、十分に留意している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の会の司会者など、役割を考えて任せたりしている。歌や踊りが好きな利用者が多く、歌唱などの楽しみ事が多い。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	300メートル程度離れた土地に、庭・畑があり土いじりを楽しめる。利用者の要望をうかがい、散歩や外食など工夫して行っている。ここ3年は感染症対策のため機会が減っている	感染防止のため外出は少なくなりましたが、近所の商店で買い物したい等の利用者の要望に応じている他、通院することも外出の機会となっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力によって、お金を月極めで渡したり、買い物の際に渡したりして、使えるように支援している。隣が個人商店なので毎日のように買い物を楽しんでいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を改修したホームで、予算の都合もあり、あらゆる点で十分であるとは言えないが、清掃に心がける、安全対策をするなど、施設の状況内で、常に努力している。	建物の経年による不具合には特に気を配って順次対策をし、利用者が安全に過ごすことができる環境となるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設規模が小さいので、共有空間=食堂、独りになれる=個室 となるが、利用者は屋内であれば好きな時に好きな場所で過ごしている		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての職員が、十分に留意している。使い慣れた家具や写真持ち込み心地良く過ごすことができるようにしている。	入居時には使い慣れたものの持ち込みを勧めています。家族の写真を飾っている方が多く、室内は清潔が保たれています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り、安全と自立した生活に配慮しているが、民家改修型で大きな段差があったりして、課題が残る。		